



馬耳東風

東京はうだるような暑さ，7月も残りわずかとなる中でこの原稿を書いている。手元のスマホで天気予報をみると明日から1週間，東京地方は降水確率40%～60%の雨マーク。6月下旬という異例の早さで梅雨明け宣言がされてから1カ月，なんともスッキリしない毎日だが，会員諸兄はいかがお過ごしだろうか。

そして，気がつけばすでに令和4年も下半期に突入。

上半期を振り返ってみると，ロシアのウクライナ軍事侵攻，知床半島沖観光船沈没事故，電力需給逼迫，物価高&原油高騰&円安による家計負担増加，安倍元首相銃撃など，なかなか明るいニュースにたどり着けない。

加えてオミクロン株「BA.5系統」による圧倒的な感染スピード，ワクチン接種後の効果減衰などを背景とした新型コロナウイルス感染症第7波の到来である。ため息をつきたくなるような状況だが，何が一番小生の心をモヤモヤさせるのか，その原因を考えてみた。それは最近とみに感じる世界におけるわが日本の価値の低下である。ここ最近急速に円安になったから，などという単純な理由ではない。たとえばメディアやインターネットの世界でわれわれを楽しませてくれるエンターテインメントの分野，いわゆる「エンタメ」，ここは世界的にみても韓国の一人勝ちである。アイドルグループBTSは国連でスピーチをし，その活動休止に世界中の若者が悲しんでいる。未来を担う人材，その心をつかんでいるのだからその影響力は計り知れない。映画や，Netflixのドラマも然り。同じようなことがありとあらゆる分野で起こっていることにどれほどの国民が気づいているだろうか。今まで優位と感じていたものがいつの間にかことごとく先を越されてゆくという現実とはとても辛いが直視しなければならぬ。近年，公務でアジア諸国を何カ国も回ってきたが，この圏内における公用語は明らかに英語であることを誰しもが思い知らされるであろう。ビジネ

スはもちろん，臨床の現場でも，会議でも多国籍になった瞬間に英語による会話が始まる。スピードが命の世界で通訳など入れている暇はない。その現実をみた時，10年後，日本はアジアの中で後進国になってしまうのではとゾッとした覚えがある。ある人は日本はこれから出稼ぎの国になるという。つまり自国では稼げないが故に，日本人特有の技能，気質を武器に世界で働かざるを得ない時代が来るというのだ。ただここにも問題がある。それは世界で通用する英語力が国民に備わっていないという現実。笑い話のような話だが，ある日本語学校で中国人とネパール人の生徒が授業内容を英語で教えあっているという話を聞いた。英語を学業の一科目として学んできたわれわれと，生きて行くための手段として習得している人々の間に大きな差が生まれることは自明の理である。そして言葉という日常のコミュニケーションが滞ることによって，ビジネス，相互理解のチャンスを失うことは何がなんでも避けたいところである。ITによる同時通訳技術の飛躍的發展も凄まじいと聞かすが，それを待つ方が賢明なのか。

さて，11月11日(金)～13日(日)福岡県福岡市で第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会が開催される。本会の藏内会長が大会長とのことである。

テーマは，「アジアからのワンヘルスアプローチ」

アジア各国の獣医師が一堂に会してこの一つのテーマについて議論し合う3日間。

個人的には世界の流れ，最新トレンドをキャッチし，日本の立ち位置を確認する千載一遇のチャンスと考え，拙い英語を駆使して，1人でも多くの海外の先生方とコミュニケーションを取る努力をしようと思っている。

またコロナ禍で会うことのできなかったアジア諸国の友人たちに久々に会えることも大きな楽しみである。

日常の忙しさをなんとか調整して，1人でも多くの会員の先生方が参加していただけるよう，そしてどうか事態が収束し無事に開催されることを心から願っている。

(も)